

## 19 『紹興本草』の新知見

真柳 誠

『紹興校定經史証類備急本草』は中国最後の勅撰正統本草書として名高い。これまで中尾(紹興校定經史証類備急本草の考察、上海自然科學研究所彙報、第二卷、一九三三)、岡西(紹興本草解題、新刊紹興本草別冊、春陽堂、一九七二)、鄭(神谷本『紹興本草』的初步研究、中醫雜誌、一九八一年第二期)の各氏ほかにより研究が重ねられてきた。一方、近年になって新知見もあいついでいるので、これを報告したい。

本書は王繼先らが宋政府の詔で紹興二十九年(一一五九)に進上し、その原本は未刊だったが、のち繼先らの新注などに薬図を加えて二二卷とした略本が同一書名で修内司から刊行されたらしい。しかし後世復刻されなかつたため、明代の蔵書目録までみえるが、清代には記録が

なく散逸したと推定される。一方、日本には伝本があり、それを日本で一九三三年と七一年に影印、また中国で一九九一年に簡体字本が出て、ようやく普及した。

つまり伝本はみな江戸写本かそれに基づくが、日本への伝来時期はかつて不明で、漠然と鎌倉から江戸初期頃と推測されていた。しかし梶原性全の『万安方』(一三二一五)卷一三上・療諸氣疾二に、『紹興本草』から麴条文が二回引用されているのを郭秀梅氏が発見、一三一五年以前の鎌倉末期には伝来していたことを明らかにした(中国医書对『万安方』的影響、米・Oregon 大学国際シンポジウム「Tools of Culture」発表稿、一九九七)。

現存写本は一九卷本系、一九卷本の卷次を再編して増やした二八卷本系、一九卷本の図を主に抄撮した五卷本系に大別される。根本の一九卷本系もすべて同一本に基づき、原本は二二卷本から人部と菜部中品以下の計三卷を欠くものだった。これらの所在は中尾氏が一四点、岡西氏が九点、鄭氏が二点の計二五点を報告している。さらに筆者は以下の一五点を確認したので、書誌事項を略報する。

⑤ 国立国会図書館・紹興校定経史証類備急本草、一九卷二〇(合一〇)冊、江戸写(二〇〇一五二)。紹興校定経史証類備急本草、一九卷一〇冊、江戸写(特一一四七七)。紹興校定経史証類備急本草、存卷三―二八・一二冊、江戸写(別一〇―五六)。紹興校定経史証類備急本草画、存卷一・二冊、江戸写(特一一五一八)。紹興校定経類本草画、存一冊、彩色江戸写(特一一六〇一)。

⑥ ⑦ 東洋文庫・紹興校定経史証類備急本草、二八卷一冊、彩色「江戸」写(VI-3-B-16)。紹興校定経史証類備急本草画、五卷五冊、彩色「江戸」写(XV-3-B-1a-43)。

⑧ 早稲田大学図書館・紹興校定経類本草画、五卷八冊、江戸写(特二一―八三〇)。

⑨ 宮城県図書館・紹興校定経類備急本草画、五卷七冊、江戸写(三〇一九三 伊)。

⑩ 内藤記念くすり博物館・紹興校定経類備急本草画、五冊、「江戸」写。

⑪ 米・Princeton 大学 Gest Oriental 図書館・紹興校正(校定)経史証類備急本草、五卷五冊、清末写(C103/

619)。楊守敬蔵本(いま台北故宮博物院図書館所蔵)に基づく。

⑫ 茨城大学図書館菅文庫・紹興校定経類備急本草画、存卷一・六・七・九―一五・一七、九冊、文政九年菅氏写(三・五―五)。天明二年の朱盈写本に基づく二八卷本系。

⑬ 北里大学白金図書館・紹興校定経類本草画、存卷三、一冊、彩色「江戸後期」写。五卷本系。

⑭ 高知県立牧野植物園牧野文庫・紹興校定経類備急本草画、存卷五、一冊、「江戸」写。五卷本系。

⑮ 武田科学振興財団杏雨書屋・図経本草、存卷五(一部)、一冊、「江戸」写(貴二五七)。五卷本系。

なお岡西氏が英国博物院図書館蔵として日本写本かと推測した『紹興校定本草画』は、大英図書館蔵のシーボルト旧蔵江戸中期写本で、存二巻・合一冊(or九二一)だった。

(茨城大学人文学部／北里研究所東医研・医史学研究所)